

IV-4: 旱魃への対応とレジリアンス指標の郡レベル解析

梅津千恵子（総合地球環境学研究所）

Leprichakul Thamana（総合地球環境学研究所）

櫻井武司（農林水産政策研究所）

1. 研究の目的

郡・地域レベルの分析はターゲットとなる地域の選定やその住民に対する政策決定に重要な役割を果たすにもかかわらず、このレベルでの統計情報はザンビアでは乏しい。このサブテーマの目的は旱魃のショックやそれへ対応を地域間で比較することである。最終的には気候、生態、社会・経済情報を地理情報と統合して地域のレジリアンスを高める要因の分析とそのための政策立案に寄与することを目指す。

2. 研究の概要

1) 社会・経済指標，農業生産，穀物価格に関する郡レベルでの統計データを中央統計局と農業省より入手する。2) 中央統計局の収穫予測調査及び収穫後調査の対象となった世帯に対して再調査を実施し、統合したデータセットを作成する。3) 郡レベルの統計情報は農家世帯の調査データに基づき補足し、さらに降雨量や土壌肥沃度等の農業生態の情報とを重ね合わせて分析する。4) 郡レベルの社会・経済や制度的要因および農業生態的要因を用いてレジリアンス指標のマッピングを行う。

3. 今年度実施した内容

平成18年度は以下の3項目を実施した。1) ザンビアで入手可能な政府統計情報の調査および統計情報の取得、2) 2004/2005年の旱魃がザンビアの農業生産へ及ぼした影響の予備調査、3) 東部、南部州での世帯調査の準備及び実施。

4. 今年度のまとめと今後の課題

ザンビア中央統計局の収穫後調査から2004/2005年の旱魃による農業生産への被害の特徴を概観した。2005年の農業生産の被害は1991/1992年の旱魃に匹敵するものであった。今後、近年で最悪の旱魃であった1991/1992年との比較も重要と思われる。

5. 来年度の計画

- 1) CSO等からの統計情報の入手と分析（LCMS及びその他のデータ）
- 2) 世帯調査の実施（平成19年3-4月実施予定）及び予備解析
- 3) 1991/1992年旱魃と2004/2005年旱魃の農業生産や社会・政治・経済環境の比較